

令和 5 年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校の教育目標「志高く創造性豊かな実践力のある人間を育成する」のもと、本年度はスクールポリシーやグランドデザインを踏まえ、「主体的に学習する強い意志とその実行力の育成」を目指した。特に「新たな価値観や考え方を構築する創造力の育成」、「疑問をもち、それを追究する探究心の育成」「他者と協同できる生徒の育成」を目標とし、学校アクションプランとして7項目の重点課題を設定し、取り組んだ。

その結果、

- (1) 学校経営計画の中から課題を重点化して取り組むことにより、問題点を明確にすることができた。
- (2) 今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大によって、縮小した学校行事を感染症の拡大以前の規模に戻し、その内容も生徒がより主体的に活動できるものとなった。
- (3) 学校評議員から多くの貴重な意見をいただき、それらを活かすことによって、生徒・保護者・地域により開かれた学校づくりに努めることができた。今年度は、国際教育や探究活動の深化に繋がった。

7 次年度へ向けての課題と方策

今年度の取り組みとその結果をしっかりと見極め、県民から愛される魅力ある高等学校として、さらに飛躍するために、次のような点に配慮したい。

- (1) スクール・ポリシーやグランドデザインを意識した重点目標を新たに設定して、本校の教育の質向上につなげていく。その際、教職員相互の信頼関係を深め、教職員のコンセンサスを図る。
- (2) 生徒・保護者・地域それぞれが理解しやすい学校アクションプランを作成し、進捗状況を検討し、その状況をホームページやPTAだより等で発信していく。
- (3) 学校評議員や地域の方々からいただいた貴重な意見を全教職員に周知し、各分掌・教科・学年等において改善策を検討し、実行する。

今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和5年度 富山南高等学校アクションプラン -1-

重点項目	学習活動（教科指導全般の充実）	
重点課題	教科指導の充実	
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領では、主体的・対話的で深い学びに向けた授業への改善が求められることから、指導内容や方法について各教科部会を中心に研修や協議を行っている。思考力問題への対応、表現力の向上について、授業研究をさらに活発化していく必要がある。 ・昨年度は、授業アンケートの「授業はわかりやすかったですか？」という問いに「少し思う」「大変そう思う」と答えた生徒は合わせて約70%であった。今年度も分かりやすい授業を大切にすることはもちろん、本校グランドデザインにある「疑問をもち、それを追究する探究心（Inquiry）」を育成し、各教科における深い学びを実現するために、教師全員で授業のあり方を考えていかなければならない。 ・全生徒にタブレットが配布されたこともあり、多くの教員がICTを活用した授業や学習活動を行っている。今後も、ICTの活用をさらに進め、生徒の深い学びに繋げていけるような授業の工夫・実践を行う必要がある。 ・多忙化の中、指導方法などについて意見・情報を交換したり協力し合ったりする時間を十分に持っているとは言えない状況であり、工夫・改善が必要である。 ・生徒の学習活動の形態が多岐にわたるようになってきており、生徒の授業や課題に対する反応や感想を把握しながら指導を進める必要がある。 	
達成目標	①教員の教科指導力や授業力の向上 校内研修や互見授業などを実施し、研修・研究に積極的に取り組む。 互見授業への参加 年3回以上	②生徒の授業に対する満足度 授業アンケートで「わかりやすかった」に4または5と評価されている割合 70%以上
方策	<p>①指導力・授業力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互見授業については、年間4週程度（1学期2週、2学期2週）の実施期間を設けるが、1、2学期は必ずしも実施期間にこだわらずに見学できることとし、日常的に授業を互見しやすい雰囲気作りを進める。 ・授業実践に関する意見・情報交換については、教科会議を開いて行うことはもちろんだが、それだけでなく、日常的に意見・情報交換する機会をこれまで以上に大切にする。 ・互見授業などを通して、深い学びのためのツールとしてのICT活用について、意見や情報の交換を特に積極的に行う。 ・グランドデザインをふまえて、「互見授業記録」に意見・感想を記入する。その内容を一覧にし、他の教員にも見られるようにする。 ・他校の公開授業やオンラインでの研修会などを積極的に参加して、研修を深める機会を増やす。また、その成果を校内へフィードバックする。 <p>②生徒の授業に対する満足度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月および12月に授業アンケートを実施する。 ・7月のアンケートの結果を数値化し、授業の改善ための参考とする。 ・12月と7月のアンケート結果を比較し、改善がみられたかどうか、振り返りを行う。 	
達成度	①互見授業 ・授業に関して、教員が日々、情報交換する機会や授業を参観する機会は増えている。 ・ICT機器の活用は、活発である。	②生徒の授業に関する満足度 ・アンケートの結果、「先生の授業はわかりやすかったですか？」に対して、4「だいたい思う」が前期30%、後期27%、5「思う」が前期50%、後期54%であった。4と5を合わせて、目標の70%を超えている。
具体的な取組状況	<p>①互見授業 新学習指導要領の導入により、授業内容や評価について、教員同士の情報交換や授業の参観はこれまでより明らかに増えているが、なかなか先生方に互見授業の記録を記入していただく機会を作れなかった。多忙な中、先生方に過度に負担をかけないようにしながら、先生方の日々の取り組みを上手く可視化できる目標を、来年度に向けて考える必要がある。</p> <p>②生徒の授業に対する満足度 アンケートの実施の仕方、内容に課題を感じた。現在の新指導要領の下で、生徒の満足度を測るためには、「わかりやすさ」も重要であるが、生徒自身がいかに自ら主体的に学習できたか、その支援を教員が十分にできたのか、生徒に振り返ってもらい、その結果を次に生かしていくことが重要である。このような生徒による振り返りは、各教科・科目の日々の学習活動では普段から行われているため、そうした日々の活動の成果を上手く吸い上げることができる目標を、来年度に向けて考えていきたい。</p>	
評価	B 「互見授業記録」の記入について再検討したい。	B 数値としては達成しているが、実施の仕方や内容を再検討したい。
学校関係者の意見	教科指導や評価方法についての意見交換は、今後ますます必要になってくると思うが、それを「記録」する方法については記入しやすい方法を検討して欲しい。	
次年度へ向けての課題	日々、教員が行っている研修の成果や、日々の授業で行っている積み重ねを、うまく可視化できるような目標について再考したい。	

（評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった）

令和5年度 富山南高等学校アクションプラン -2-

重点項目	学習活動（国際理解教育）	
重点課題	英語コミュニケーション能力の育成と国際コースの活動の充実	
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を軸とし、様々な活動（プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション等）を行うことで、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指している。 ・「国際コミュニケーション」を学校設定科目として設定し、自然な英語の聞きとり、英語でのプレゼンテーション、意見交換ができる英語力の育成に努めている。 ・特色ある国際コースを主とした活動である「国際理解のための講演会」、「食文化交流会」、及び「国際理解セミナー」がより有意義なものになるよう、事前・事後指導の充実に努めている。 ・コロナ禍においても、サンディギート高校や台湾、北アイルランドの交流校とオンラインの交流を継続している。 ・GTECは1年生が7月、2年生が12月のアセスメント版の受検を予定している。 ・令和4年度国際コース卒業生で英語検定2級以上を取得した生徒の割合は、50%であった。 ・令和4年度国際コース2年生で英語検定2級以上を取得した生徒の割合は63%であった。 	
達成目標	①コミュニケーション能力をレベルアップした生徒の割合（GTEC 4技能、英検）	②「国際理解セミナー」、「国際理解のための講演会」への参加生徒の満足度（希望者も含む）の割合
	GTEC 690点以上70%（1年） 755点以上70%（2年）	アンケート調査による「たいへん満足」「ほぼ満足」の割合が合わせて90%以上
	英検（国際コース）2年終了時の英語検定2級以上取得者割合65%以上	
方策	<ul style="list-style-type: none"> ・国際コースに限らず、全クラスで英語4技能5領域の力の向上を目指す授業を行う。 ・英語に関する行事（イングリッシュ・キャンプを工夫して行い、生徒の英語に関する興味・関心を高める。 ・英語の4技能5領域の力を計るパフォーマンス評価を継続して行う。 ・英語検定の受検を推奨する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「国際理解」、「英語活動」、「コミュニケーション能力の向上」等に関する講師を県内外問わず招聘する。 ・「国際理解セミナー」及び「国際理解のための講演会」が、より有意義なものになるよう事前指導を十分に行う。また事後に振り返り（感想）をさせることで、今後の学校生活や進路選択に役立たせる。 ・満足度に関するアンケートを行い、より充実した行事になるよう工夫する。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・GTEC結果 1年生 690点以上 67%（133名） 2年生 755点以上 81%（158名） 3年生は受験せず GTECに関しては、2学年が目標を大きく上回った。 ・英検 国際コース2級以上取得者 2年生 21名 53%（内1名は1級） 3年生 20名 66%（内1名は準1級） 	<ul style="list-style-type: none"> ・7月「国際理解のための講演会」 「たいへん満足」「ほぼ満足」を合わせて100%であった。 ・11月「国際理解セミナー」 「不安と危機の時代を生き抜く」と題して元国連事務次長に講演を頂いた。その後、2年生コース及び1年生コース予定者との座談会を行い、満足度が「大変満足」「ほぼ満足」を合わせて100%であった。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・GTEC：各学年ともにパフォーマンス評価を行い4技能をバランス良く伸ばすよう努めている。 ・英検：授業等で受検を推奨したところ本校実施の第3回では112名が受検した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・7月の講演会では講師の方によるスライドや動画に加え、生徒参加型の活動もあり、参加生徒の関心は高かった。 ・12月のセミナーは、2年生国際コース生徒が模擬政党を創り、政策を英語で発表した。富山大学から教授を迎え、講評を頂いた。
評価	B GTECに関して1学年は目標に達成できなかったが、2学年は大きく上回った。英検は第3回の結果が未だである。	A 内容・難易度ともに良かった。
学校関係者の意見	GTEC、英検では具体的な目標があるのは良いことである。また、今後もより国際的な視野を持てるようセミナーや講演会では有名な方を招聘し、生徒へ良い刺激をもたらして頂きたい。	
次年度へ向けての課題	コミュニケーション能力のレベルアップについて、日頃の授業での取り組みに加えてイングリッシュキャンプやGTEC、英検などへの積極的な参加を促したい。国際理解に関する講演やセミナーでは、実施時期について年間行事計画の中で適切な検討が必要である。	

（評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった）

令和5年度 富山南高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	学校生活（生徒指導）	
重点課題	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・明るくまじめな生徒が多いものの、遅刻を繰り返したり、きちんとした服装やマナーが定着していない生徒も見受けられる。 ・球技大会や体育大会などの行事では、今まで担任が生徒から貴重品を預かり、貴重品袋に入れ、職員室で管理していた。しかし、貴重品を預ける生徒は3分の1程度で、盗難防止としては不十分であった。今年度から全学年で生徒用のロッカーが導入され、貴重品をロッカーに入れて管理するように勧めている。 ・昨年度は交通事故が9件発生。すべて自転車乗車中の事故で、重大事態に繋がる危険性を秘めている。また、自転車の乗車マナーに関する苦情も寄せられている。 	
達成目標	①貴重品の管理についてアンケートを実施し、個人用ロッカーを利用して貴重品を管理している生徒の割合 全校生徒の70%以上	②交通事故の年間件数 5件以内（目標は0件）
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻・服装・あいさつ・マナー等に関する指導は、教育活動全体の中で全教員が一丸となって行う。特に、登校指導や、生活委員・生徒会が協力して挨拶運動を行う中で、生徒一人ひとりが主体的に自覚と責任をもった行動ができるように指導する。 ①個人用ロッカー <ul style="list-style-type: none"> ・全校集会や学年集会などの機会を捉えてロッカーに施錠するよう指導を行う。また、体育大会や球技大会などの行事の際、ロッカーで貴重品を管理するように呼びかける。ロッカーの使用について意識調査を実施し、ロッカーの使い方に関する規範意識を持たせ、今後の指導に役立てる。 ②交通事故 <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、交通安全教室やさわやか運動、登校指導、サイクル安全リーダーによる交通安全街頭指導、HR、生徒会を通して交通安全に関する意識の高揚を図る。 ・努力義務ではあるが、ヘルメットの着用を呼びかける。 	
達成度	アンケートは実施していない。ほとんどのロッカーが施錠され、私物が管理されている。	交通事故の年間件数11件（昨年よりも1件少ない）
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ①個人用ロッカーの使用について、行事の際はもちろんだが、日頃からロッカーで貴重品を管理している生徒は多いようである。今のところロッカーの使用に関して大きなトラブルは起きていない。 ②交通事故については、11件報告されている。警察・保護者・学校への連絡については、スムーズに行われており、事故後の対応については特に問題ないと考えられる。始業式・終業式、学年集会などをとおして、交通安全の指導に当たってきた前半は一旦停止をしなかった、不用意に進路変更したなどが原因だった。後半は、横断歩道を横断中に自動車に接触されることが多かった。 	
評 価	B ほとんどの生徒が個人用ロッカーで貴重品を管理している。	C 昨年の件数よりも下回ってはいるものの10件以上の件数だった。
学校関係者の意見	努力義務とはいえ、安全のためヘルメット着用をもっと強く推奨してはどうか。本校に限らずイヤホンをして自転車を運転している高校生が多い。危険な運転なのでイヤホンをしないで運転するように呼びかけてほしい。	
次年度へ向けての課題	個人用ロッカーに関しては、貴重品の管理だけではなく、使用のマナーについても啓発していかなければならない。交通事故については事故発生を防ぐために交差点では細心の注意が必要であること、ヘルメット着用を心がけることを伝えていかなければならない。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった)

令和5年度 富山南高等学校アクションプラン -4-

重点項目	学校生活（保健指導）			
重点課題	感染症対策の継続と規則正しい生活リズムの定着			
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、学校現場でのマスクの着用が原則個人の判断に任せられ、新型コロナウイルス感染症対策は緩和されたが、生徒は感染への不安をいまだ持っており、教室でのマスク生活は続いている。教室の常時換気と手洗いとうがいを徹底させ、マスクがなくても安心して学校生活を送れるようにさせたい。 ・生徒が学習に集中して取り組むためには、学校としての感染症対策のほかに、各自の健康管理が重要で、スマホを中心とした日常生活になっている生徒は、適切な食習慣や睡眠時間の確保に努めるなど生活習慣を見直し、健康な生活を送れるようにさせたい。 			
達成目標	①教室の常時換気の実施率と毎日の清掃活動による環境改善への意識の高揚 80%以上	②食習慣や睡眠時間などの生活習慣を見直す2回の調査で改善できたと回答する割合 60%以上		
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ①について <ul style="list-style-type: none"> ・清掃の実施状況を生徒にアンケート調査する。 ・毎朝のST時に廊下や教室の窓を開けたか、担任にアンケート調査する。 ②について <ul style="list-style-type: none"> ・1学期と2学期に1回ずつ、毎日の食事や睡眠時間について1週間程度記録させて、1回目と2回目を比較して改善できたと思えるかを、生徒にアンケート調査する。 			
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ①について <p>年度初めは換気について呼びかける場面が多かったが、徐々にコロナ感染が落ちついてきて、換気への取り組みはやばらつきが見られた。しかし、夏期クーラー使用時は換気の徹底と空気清浄機の使用を促し、冬期暖房使用時も換気を呼びかけた。清掃については、毎日担当職員が熱心に指導しきちんと行われている。よって、生徒への清掃への取り組みのアンケートはとりやめ、換気の実施状況についてのアンケートを令和6年1月16日に、担任15人に対して行った。アンケートは、0%から100%までを10%単位で回答を求めた。その結果、平均値56%、中央値70%であった。目標の80%以上は達成できなかった。なお、最頻値は、70%と90%の各3である。</p> ②について <p>生徒の食事と睡眠の状況についての1回目のアンケートは、7月10日(月)～16日(日)の7日間で実施した。アンケート結果については、1学期末保護者懇談会で活用してもらうように促し、データ処理後、食事が何回も摂れていない生徒と平均睡眠時間が6時間未満の生徒については改めて担任に情報提供して、生徒面談で話題にしてもらうようにした。2回目のアンケートは、12月11日(月)～17日(日)の7日間で実施した。2回とも、期末考査終了後の期間である。2回目のアンケートでは、個々に1回目提出の記録を差し込み印刷して調査用紙を配り、1回目との比較がしやすいようにした。食事と睡眠についてそれぞれ、前回と比較して改善できたと思うか、思わないかを調査した。特に改善運動をしたものではない。集約生徒数は、全校生徒588人中、503人で、85.5%である。改善したと思う割合は、食事は79.8%、睡眠は61.0%である。ともに目標の60%以上を超えている。なお、食事の回数が少ない生徒については保護者懇談会で保護者に確認する場面がみられた。</p> 			
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ①について <ul style="list-style-type: none"> ・掃除の取り組みは、常に熱心に行われている。 ・換気については職員朝礼等で、空調使用時に換気を呼びかけた。 ②について <ul style="list-style-type: none"> ・2回のアンケートで調査と比較をしたが、全般的に取り組みが徹底されたとは言いがたい。しかし、アンケート結果を基に、必要な生徒には個別対応ができていた。 			
評 価	C	生徒へのアンケートはとりやめた。担任へのアンケート結果は目標を達成できなかった。	B	生徒へのアンケートの結果、食事改善、睡眠改善とも、目標を達成した。
学校関係者の意見	今後もコロナに限らず様々な感染症対策が必要である。また、口腔衛生にも気を配ることが必要である。			
次年度に向けての課題	年末頃からインフルエンザやコロナで欠席する生徒が増えてきており感染症対策は今後も重要な課題である。睡眠と食事に関する生徒への悉皆調査は数を追うこと以外にも生徒理解に役立つ場面がみられたと思われる。			

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった)

令和5年度 富山南高等学校アクションプラン - 5 -

重点項目	進路支援		
重点課題	高い志を持ち進路目標の達成に取り組む生徒の育成		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学に進学したいと考えている生徒の割合は1・2年次で9割以上、3年次で8割以上になるが、具体的な進路目標をもった生徒の割合が低い。 ・学部学科を2年次1学期までに決定できる生徒の割合が少ない。 ・高い進路目標を抱くことができても、学力がともなわず断念する生徒が多い。 		
達成目標	①年間を通じて生徒の進路目標の意識付けを高める面接回数を確保する。	②高校生のための学びの基礎診断を利用した学習到達度 (GTZ) を達成した生徒の割合	
	5回以上	1月模試において総合B1以上の生徒の割合が1年生は6割以上、2年生は5割以上、3年生は11月模試において総合B1以上の生徒の割合が5割以上	
方 策	<ol style="list-style-type: none"> 1 進路指導計画に基づく各学年の方針に従い、生徒との個人面接を通して、生徒理解を深めるとともに信頼関係を構築し、具体的な進路目標を個々に設定させる。 2 学力検討会及び学年会を通して、教科と学年が連携して生徒の学習意欲を喚起し、学力の定着を図れるように努める。 		
達成度	12月までの面接回数 5回～8回達成されている。	11月模試B1以上の割合 1年50% 2年22% 3年49% 1, 2年生の1月模試の結果はまだ出ていないため、改めて検討したい。	
具体的な取組状況	<ol style="list-style-type: none"> 1 1, 2学期の面接週間、個別保護者会の前、そして必要な機会を見つけて面接を行い生徒理解に努めている。3年生は模擬試験の直後にも面接を実施している。面接を通して学習習慣の定着も図りたい。 2 3年生は進学検討会を実施し、現在の学力把握をおこなっている。1, 2年生は学年会において7・11月の模試分析をおこなった。学年や教科ごとに課題はまだたくさんある。 		
評 価	A	達成目標を超えている。	B 達成目標に近い数値が出ている。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者として大変きめ細やかな受験指導をしていただきありがとうございます。 ・県内進学者と県外進学者の割合について。富山は大変住みやすい県なので、県外に進学してもぜひ戻ってきていただいて富山県に住み続けて欲しい。 		
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年の目標設定が「B1以上の生徒の割合」になっているが、達成できていない。本年も目標値には届かなかった。高い目標数値達成に向けて、受け手側である生徒の実態把握と発信者側の教師の戦略のすり合わせが大切である。 ・担任を対象とした面接に関するアンケートでは、回数のほか様々な立場からの意見を聞く機会も大切との意見があった。学年の中で教科面接や副担任による面談の機会を増やしていくことも検討課題である。 ・「先の面接」と「後の面接」について アンケート結果から、あるテストを境に「後の面接」が行われていることが多いことがわかった。戦略的に生徒のモチベーションを高めるために、「目標値の設定」「習得状況の把握」「戦略の修正」など「先の面接」を効果的に入れていくことを模索したい。 		

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった)

令和5年度 富山南高等学校アクションプラン -6-

重点項目	特別活動(①HR活動、②学校行事)の充実、③生徒の主体的・積極的な参加		
重点課題	生徒による主体的な企画・立案・運営		
現 状	①昨年度は学年統一テーマ討論会を企画・実施し、活発な議論が展開された。しかし、それ以外で「話し合い活動」が行われることは少なく、レクリエーション中心のHR活動となっている。 ②学校行事に関しては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、ここ数年間は縮小した形で実施してきた。今年度は、「南苑祭」「体育大会」でコロナ前の状態に戻す方向で準備を進めていく予定である。 ③あらゆる特別活動で、生徒が主体的・積極的に取り組んでいるとはいいがたい。事前指導や計画に工夫を凝らす必要がある。		
達成目標	①HR活動及び学年活動において、討論会などを各学期1回(年間3回)以上計画し、実施する。	②体育大会、南苑祭「満足度」80%以上	③企画、準備段階での取り組み姿勢や当日の運営及び参加姿勢「積極的な参画」75%以上
方 策	①ホームルーム運営委員への指導(テーマの決め方・議論の仕方など)をとおして、自主的・積極的な話し合い活動の実施を促す。話し合い活動により、様々な背景や自分とは考え方や価値観が異なる人とよりよい関係を築くことができるようにする。 ②「体育大会」「南苑祭」において、「生徒会執行部が立案→生徒議会(→各クラス)で審議・決定」の流れで準備を進めていく。生徒自身が企画・立案・審議に参加する機会を設けることで、行事に対する意識向上を図る。【実施後にアンケート調査】 ③より多くの生徒が様々な場面で積極的に参画できるよう、作業分担に工夫を凝らす。【実施後にアンケート調査】		
達成度	①について 討論会(1学年と2学年は3学期の読書会を含む)の年間実施回数 1年3.2回、2年4.4回、3年2.0回(3学年は2学期まで) ②・③について 体育大会アンケート結果(「大変そう思う」「そう思う」と答えた生徒%) 競技に全力を出せたか : 1年97%、2年96%、3年98% 充実していたか : 1年98%、2年98%、3年96% 役割を全うできたか : 1年92%、2年96%、3年99% 南苑祭アンケート結果(「大変そう思う」「そう思う」と答えた生徒%) 取り組んだことに全力を出せたか : 1年97%、2年94%、3年98% 充実していたか : 1年99%、2年95%、3年97% 計画段階からしっかり話し合いに参加したか : 1年86%、2年86%、3年91%		
具体的な取組状況	①について 1学期に全校統一ホームルーム「校則を考える～適切なルールをつくるには～」を実施した。事前にホームルーム運営委員を集めて話し合い活動の進め方について指導した。3学期の読書会は、図書部の指導のもと、図書委員が中心となって会を盛り上げていた。 ②について 「体育大会」「南苑祭」さらには「球技大会」において、「生徒会執行部が立案→生徒議会(→各クラス)で審議・決定」の流れで準備を進めた。 ③について 体育大会では“一人一役”を原則とし、競技役員の一部を文化部の生徒に任せるなど、多くの生徒が活躍できるよう工夫を凝らした。南苑祭では、コロナ以前の状態に戻したことで、多くの生徒が様々な場面で活躍していた。		
評 価	B	A	②③行事に対する満足度および積極的な参加について、目標を達成することができた。
学校関係者の意見	身近なルールである「校則」を考えるのはよい試みだと思います。体育大会は、「一人一役」の原則通り、生徒全員が充実していたと感じました。南苑祭においても、先生方に準備段階から一生懸命に活動していただき、感謝しています。		
次年度に向けての課題	①討論会は3年間を通しての指導が必要である。クラスの話合いが本当の意味での討論会になるよう、学校全体で考えていく必要がある。 ②・③学校行事(特に南苑祭)については、借用物の確認やゴミ問題などが課題として残っている。企画などは生徒主体でできるようになっているものの、準備や後片付けを含む運営については教員主導での実施になっており、教員・生徒が一体となった運営ができるよう更なる改善を加えていかなければいけない。		

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった)

令和5年度 富山南高等学校アクションプラン -7-

重点項目	特別活動（図書指導の充実）	
重点課題	読書習慣の定着と図書館及び図書資料の活用促進	
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・読書量の多い生徒もいる反面、読書習慣のない生徒がいる。昨年度1人あたりの貸出冊数は2.7冊であった。（R3年度 3.5冊、R2年度 2.3冊） ・図書館への来館人数は1日平均37人であった。 ・本を主体的に読み、考え、表現する力が、十分についているとはいえない。 ・小論文や調べ学習の機会が増え、生徒自身が情報を選択しまとめることが必要になっている。しかし、生徒の図書検索力は十分とは言えない。 ・昨年度レファレンス（図書資料や情報を求めている生徒たちに支援する活動）を利用した生徒数は60人だった。 	
達成目標	① 1人あたりの貸出冊数 1年間に3冊以上	② レファレンスを利用した生徒数 1年間に70人以上
方策	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用を支援する。 ・生徒図書委員による企画を支援し、読書の楽しさを体験できる場を設定する。 ・ICTを活用した電子図書館や蔵書検索など利用の定着を促進する。 ・「としょだより」（生徒図書委員発行）と「Library」（図書部発行）を配布し、新刊図書案内や生徒の読後感等を掲載することによって、生徒の読書欲を喚起する。 ・県立図書館と連携し、領域や系統を決めて一つのテーマや内容に沿った関連図書を紹介するコーナーを設ける。 ・継続して作成しているパスファインダーをレファレンスを反映させ更新し、生徒の図書館検索力を支援する。 	
達成度	① 1. 81冊（1月22日現在）	② 40人（1月22日現在）
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・中間評価（9月25日）時点では、1人あたりの貸出冊数は、約1.4冊、レファレンスの数は、21人であった。また、前年度9月の貸出冊数は1.9冊、レファレンスは30人だった。 ・4月に新入生全員対象に図書館利用指導を行い、併せて図書館蔵書検索ソフト「カーリル」の利用指導も行った。 ・6月に教養講座を実施し、講座で紹介された英米文学の書籍の展示・貸出を行った。読書感想文にその書籍を選んだ生徒もいた。 ・7月に夏の読書課題に向けて、1学年全員を対象に「読書感想文指導」を図書館で行った。併せてタブレットを用いて「電子図書館」の利用指導も行った。また、1・2学年にはブックリスト「読んでみようこの1冊！」を各クラスに配布し、グーグルクラスルームでも全学年の生徒が閲覧できるようにした。 ・図書委員が推薦する本を南苑祭で、クイズ形式による参加型展示を行うことで、読書の楽しさを体験する工夫をした。 ・10月に、希望する図書委員による店頭選書を行った。 ・生徒図書委員発行の「としょだより」（5回）と図書部発行の「Library」（4回）を配布し、生徒の読書欲を喚起している。学校のホームページにもアップしている。 ・国語科と音楽科からの要望により、県立図書館と本校図書館の書籍を用意し、書籍とタブレットを用いた授業のサポートを図書館で行った。 ・1月に「統一HR読書会」の準備と運営を生徒図書委員中心に行った。1年生はビブリオバトル、2年生は『働き方5.0』（落合陽一著）を課題図書とした読書会を活発に行うことができた。 ・総合的な探究の時間で英語科と数学科で図書館利用があった。 ・国語科や学年と連携して、夏休みに1・2学年全員を対象に「校内読書感想文コンクール」を実施した。 ・小論文関連の本のコーナーを学部別に設けたり、新聞記事を分野毎にまとめた「切り抜き速報」をそろえたりするなど、小論文対策に活用できるようにした。 ・1日の来館人数は平均39人である。（1月22日現在） 	
評価	B 中間評価では約1.4冊（昨年度は1.9冊）だったが、その後の進路関連の書籍の貸出がなかった。	C 中間評価では21人（昨年度は30人）だったが、その後の推薦入試関連のレファレンスが全くなかった。
学校関係者の意見	大学入試問題に関連する本のコーナーを設けているのはよいアイデアである。いろいろな企画を生徒の育成のために行っており、ありがたい。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・総合の課題研究に関する図書館利用は、タブレットの利用によりほとんどなくなった。一方、他の授業における図書館での書籍利用の機会が増えた。次年度は、授業やホームルーム等において、より活用される図書館になるよう、一層工夫したい。 	

（評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった）